

# 人

## 支えあうしくみ



契約講の寄り合い。会場となる家を「宿」といい、毎年度に交代して受け持つ。

山にたかこれ世にたかこれ生きていくために、人々は欠かせない労働・儀礼・行事・娯楽などにおいて、共同し、互いに助け合った。そうした支えあいのしくみを「契約講」といい、年に二回定例の寄り合いを開き、其の役割や、それを定める共同山の分配、雇い替えの時の役割など、村としての協同行動の決まり事と役割分担を話し合った。

契約講には、各家の当主が参加したが、かつては羽織袴で盛装も決められた、とても華やかな会合であったという。ケイマクという言葉は古く、現代的な契約の話からはとれません。かつてケイマクでの契約はお上の法に背いても守らねばならなかったという。



カマ刈り



下原種山菜試食会



升沢松場契約講



水路の入り



升沢契約講規約